

対米英蘭降戦争終末促進ニ関スル腹案

昭和一六、一一、一五  
連絡会議決定

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page, including characters like 昭和、一六、一一、一五 and 連絡会議決定）

一、速ニ極東ニ於ケル米英蘭ノ根拠ヲ覆滅シテ自存自衛ヲ確立スルト共ニ更ニ積極的措置ニ依リ蔣政權ノ屈伏ヲ促進シ独伊ト提携シテ先ツ英ノ屈伏ヲ図リ米ノ繼戰意志ヲ喪失セシムルニ勉ム

二、極力戰爭相手ノ擴大ヲ防止シオ三国ノ利導ニ勉ム

要領

一、帝國ハ迅速ナル武力戰ヲ遂行シ東亞及西南太平洋ニ於ケル米英蘭ノ根拠ヲ覆滅シ戰略上優位ノ態勢ヲ確立スルト共ニ重要資源地域竝主要交通線ヲ確保シテ長期自給自足ノ態勢ヲ整フ

凡有手段ヲ尽シテ適時米海軍主力ヲ誘致シ之ヲ擊滅スルニ勉ム

二、日独伊三国協力シテ先ツ英ノ屈伏ヲ図ル

(一)帝國ハ左ノ諸方策ヲ執ル

(1) 濠洲印度ニ對シ戰略及通商破壞等ノ手段ニ依リ英本國トノ連絡ヲ遮断シ其ノ離反ヲ策ス

(2) 「ビルマ」ノ獨立ヲ促進シ其ノ成果ヲ利導シテ印度ノ獨立ヲ利

戦ス

(一) 独伊ヲシテ左ノ諸方策ヲ執ラシムルニ勉ム  
(二) 近東、北阿、「スエズ」作戦ヲ実施スルト共ニ印度ニ対シ施策ヲ行フ

(三) 対英封鎖ヲ強化ス

(四) 情勢之ヲ許スニ至ラハ英本土上陸作戦ヲ実施ス

(五) 三国ハ協力シテ左ノ諸方策ヲ執ル

(六) 印度洋ヲ通スル三国間ノ連絡提攜ニ勉ム

(七) 海上作戦ヲ強化ス

(八) 占領地資源ノ対英流出ヲ禁絶ス

三、日独伊ハ協力シテ対英措置ト並行シテ米ノ戦意ヲ喪失セシムルニ勉ム

(一) 帝国ハ左ノ諸方策ヲ執ル

(二) 比島ノ取扱ハ差シ當リ現政権ヲ存続セシムルコトトシ戦争終末促進ニ資スル如ク考慮ス

(三) 対米通商破壊戦ヲ徹底ス

(四) 支那及南洋資源ノ対米流出ヲ禁絶ス

(五) 対米宣傳謀略ヲ強化ス

其ノ重点ヲ米海軍主力ノ極東ヘノ誘致並米極東政策ノ反省ト日米戦無意義指摘ニ置キ米國与論ノ歐戰誘致ニ導ク

(六) 米濠關係ノ離隔ヲ図ル

(七) 独伊ヲシテ左ノ諸方策ヲ執ラシムルニ勉ム

(八) 大西洋及印度洋方面ニ於ケル対米海上攻勢ヲ強化ス

(九) 中南米ニ対スル軍事、経済、政治的攻勢ヲ強化ス

四、支那ニ対シテハ対米英蘭戦争特ニ其ノ作戦ノ成果ヲ活用シテ援蔣ノ禁絶、抗戦力ノ減殺ヲ図リ在支租界ノ把握、南洋華僑ノ利導、作戦ノ強化等政戦略ノ手段ヲ積極化シ以テ重慶政権ノ屈伏ヲ促進ス

五、帝國ハ兩方ニ対スル作戦間極力対「ソ」戦争ノ惹起ヲ防止スルニ勉ム

六、独「ソ」兩國ノ意圖ニ依リテハ兩國ヲ講和セシメ「ソ」ヲ樞軸調ニ

引キ入レ他方日蘇關係ヲ調整シツツ場合ニ依リテハ「ソ」聯ノ印度  
「イラン」方面進出ヲ助長スルコトヲ考慮ス

六 佛印ニ対シテハ現施策ヲ続行シ

七 泰ニ対シテハ対英失地恢復ヲ以テ帝國ノ施策ニ協調スル如ク誘導ス  
七 當時政局ノ推移、國際情勢、敵國民心ノ動向等ニ対シ嚴密ナル監視  
考察ヲ加ヘツツ戰爭終結ノ爲左記ノ如キ機會ヲ捕捉スルニ勉ム

(イ) 南方ニ対スル作戰ノ主要段階

(ロ) 支那ニ対スル作戰ノ主要段階 待ニ解政權ノ屈伏

(ハ) 歐洲戦局ノ情勢變化ノ好機 待ニ英本土ノ没落、独「ソ」戦ノ終末  
対印度施策ノ成功

之方爲速ニ南米諸國、瑞典、葡國、法王庁ニ対スル外交並宣傳ノ施  
策ヲ強化ス

日独伊三国ハ單独不講和ヲ取極ムルト共ニ英ノ屈伏ニ際シ之ト直ニ  
講和スルコトナク英ヲシテ米ヲ誘導セシムル如ク施策スルニ勉ム  
対米和平促進ノ方策トシテ南洋方面ニ於ケル錫、護謨ノ供給及比島  
ノ取扱ニ関シ考慮ス

### 南方占領地行政実施要領

十一月二十日大本營政府  
連絡會議決定